

株主通信



飛騨牛



五平餅



にじのきらめき



さるぼぼ



白川郷

日本の
特産品
岐阜県編

詳細は
裏表紙へ！

木徳神糧ってどんな会社？

木徳神糧は、コメビジネスを通して国内のみならず、世界中の消費者にコメ・コメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

成長を支える4つの強み ～Strong Point～

1 おコメの取扱い量 国内トップクラス！

スケールメリットを最大限に活用し、全国の主要産地から仕入れ、安定的に供給する体制を確保しています。

2 お客様のニーズに対して 迅速に対応できる体制

全国に営業拠点・精米工場を設置し、必要な時に、必要な場所へ、必要な量を迅速に供給する生産体制を確立しています。

3 おコメ以外にも！ 豊富な商品群

製菓・加工食品用米粉や米油などコメ加工食品や、鶏卵・卵加工品などバラエティ豊富な製品を取り扱っています。

4 ライフスタイルの変化に対応した 高付加価値商品

「安全と健康」「おいしさ」をキーワードに、最先端のバイオテクノロジーを用いて、おコメの持つ新しい機能を開発しています。

これからの成長に向けて ～Growth Strategy～

飼料事業

国内配合飼料メーカー等への飼料及び飼料原料の販売

- ・数量とエリアの拡大
- ・取扱商品の用途拡大

米穀事業

家庭用・業務用の精米の製造販売、玄米の販売

- 国内：生産者に近づく体制づくりの具現化
生産体制の再構築
- 海外：コメビジネスのグローバル展開
国産米輸出の拡大と市場の開拓

鶏卵事業

鶏卵、鶏卵加工品の販売

- ・中食・外食向け販売強化
- ・加工品の提案営業の拡大

食品事業

コメ加工食品の製造・販売

- 付加価値商品のラインナップ拡充と海外展開

市場環境の
変化への迅速対応

+

大手米卸としての
存在意義の発揮

=

日本の農業の持続的な発展に貢献し、
企業価値の向上を実現



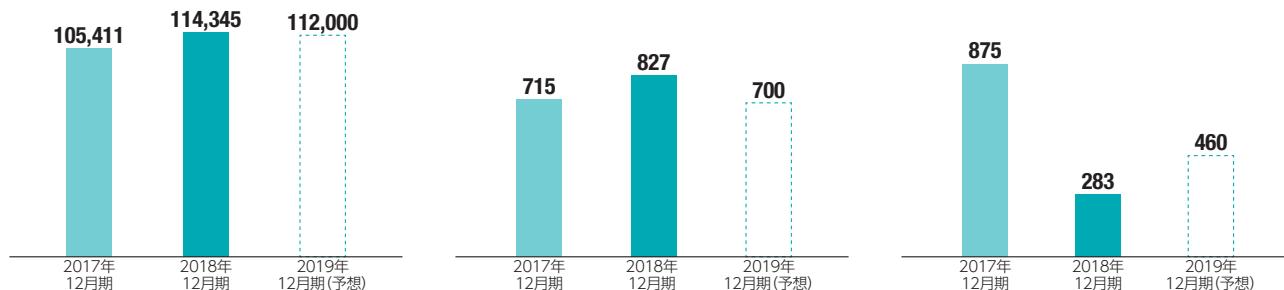
売上高

(単位:百万円)

経常利益

(単位:百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



米穀事業



- 国産米の販売単価の上昇、ミニマム・アクセス米の取扱数量の大幅増加及び高単価の国からの輸入増加により増収
- 仕入価格の上昇に伴う販売価格の改定、コスト削減施策に注力し増益



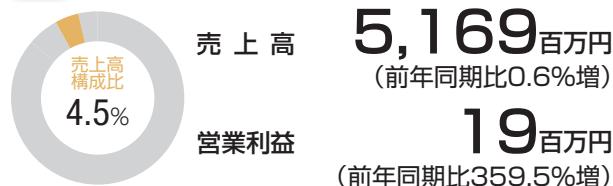
飼料事業



- 飼料原料相場の上昇に伴い販売単価が上昇し増収
- 需給が逼迫した糟糠類を中心に調達が難航し、利益率が低下したことから減益



鶏卵事業



- 鶏卵相場は前年同期比大きく下落したものの、中食・外食へ向けたメニュー提案が奏功し、業務用向けパック卵及び鶏卵加工品の販売数量が増加したことにより増収、大幅増益



食品事業



- 付加価値商品の拡大等により増収
- 台湾におけるたんぱく質調整米の製造・販売の大幅な遅れにより営業損失を計上



国内外における成長戦略を 着実に進めながら 新たな発想によるビジネスを 確立していきます。

代表取締役社長

平山 淳



Q

2018年12月期の業績について
お聞かせください。

A

価格改定に一定の理解が得られ、
採算が改善しましたが、
台湾事業で減損損失を計上しました。

主力の米穀事業は、国内消費の減少が続くなか、卸業者間の玄米取引が低調に推移し、販売量が大きく減少しました。しかし、国産米の取引価格が4年連続前年を上回る水準で推移したこと、単価の高い国からのミニマム・アクセス米の輸入が多かったことおよび取扱数量が前年同期と比べ大幅に増加したこと等が増収につながりました。

また、飼料事業における原料相場上昇に伴う売上高の伸長や、国内子会社キトクフーズが展開する鶏卵事業での業務用向けパック卵、温泉卵などの鶏卵加工品の販売数の増加など、各事業における増収要因もありました。その結果、売上高は、前年同期比8.5%増の1,143億45百万円と期初の計画値を上回る結果となりました。

利益面については、高価格帯のブランド米など

への生産シフトに伴い、中食・外食向けの業務用からのニーズが強い値ごろ感のある原料の調達が難航するという需給のミスマッチが依然として続くなか、取引先から仕入れ価格の上昇にある程度の理解を得ることができ、販売価格の改定が進みました。また、販売費の抑制や配送効率向上等のコスト削減策にも効果が現れ、利益率が改善しました。その結果、営業利益は前年同期比23.6%増の8億2百万円、経常利益は同15.6%増の8億27百万円となりました。

一方で、たんぱく質調整米を製造販売する台湾木徳生技股份有限公司における製造設備の本格稼働の遅れが長引き、生産体制および台湾・中国市場での販売ルートの確立が大幅に遅れたことから、減損損失による特別損失を計上しました。また、前年同期に遊休固定資産の売却等による特別利益の計上があったことから、当期の親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比67.7%減の2億83百万円となりました。台湾事業については素直に反省しないといけません、これを機に変えられるところを全て変えていきます。原料に使用する

米の品種の変更、製造過程で発生する碎米等の副産物の利用等、低コスト化と量産化に向け抜本的な見直しを行いました。また、日本国内で実績のある人員を現地の責任者として配置するとともに、台湾国内と中国の販売担当を置き、拡販していくための人員体制を充実させました。そして、より安価で食べやすい商品作りを進めるとともに、日本向け商品の開発も含め、新たな事業展開を進めてまいります。全ての施策がすぐに効果の出るものとは考えていませんが、現実的な計画で長い目で収益の出せる体制を作ることができると考えています。

Q 国内米穀事業における成長戦略の取り組みの進展をお聞かせください。

A 全農との協業も含め、生産者に近づく体制づくりへの取り組みを着々と進めています。

まず、成長戦略の1つとして取り組んでいる「生産者に近づく体制づくりの具現化」では、資本業務提携した全農とともに産地を回り、集荷の強化を図っているほか、独自品種・多収穫品種米の生産・販売拡大の取り組みを進めています。

当社独自の取り組みとして、多収穫米の種籾を配り、生産していただく動きも全国各地で拡大しており、2019年産以降は10,000トン以上の取扱量を目指しています。生産者にとっては、面積あたりの収穫量増加、作期を分散することで作業効率化と設備の有効活用、気象災害リスクを軽減できるとともに、中食・外食向け安定ニーズの取り込みが見込まれます。一方、実需者にとっては値ごろ感のある業務用米を長期的に安定調達できるとい

う、双方にとってメリットの多い多収穫品種米を普及拡大させることで、需給バランスの改善へとつなげていきたい考えです。昨年、JAぎふ、(株) 壱番屋とともにスタートした業務用新品种「にじのきらめき」導入プロジェクトも軌道に乗り始め、今後の展開に広がりを感じています。

また、全農との取り組みの進展については、集荷における協業のほか、安定供給とコストダウンの実現に向け、調達、販売、精米工場の活用等、分科会を設置し、着実に信頼関係を深めながらテーマごとに議論を前進させています。

Q 付加価値商品展開を通じた販売量の拡大・質の向上、生産体制の再構築というテーマについてはいかがでしょうか。

A 販売の伸びている長鮮度米の製造ラインの完全自動化を全国の精米工場で行っています。

国内における米穀の需給状況は、特に量販店で販売される家庭用コンシューマーパックの消費の落ち込みが続いています。当社では、「健康」「利便性」を軸とした付加価値商品の展開を通じた販売における量の拡大と質の向上が新たな市場開拓になるとの考えから、取り組みに力を入れています。その1つとして2017年より全国のコンビニ、スーパーで販売を開始したチャック式スタンドパックの鮮度保持タイプ・長鮮度米[®]が伸長しています。この好調を受け、桶川工場の長鮮度米の製造ラインを完全自動化しました。岡山工場でも設置を進めており、さらに福岡工場にも年内に導入する予定で、順次全国の工場へと設備しながら、拡販につなげていきます。また、食品事業における米粉を使



ったグルテンフリー商品の開発にも引き続き力を入れていきます。

生産体制の再構築については、長鮮度米の生産ラインの完全自動化の整備のほか、当社の主力精米工場である桶川工場に約2,000トンのおコメを保管できる低温・常温倉庫を3月に設置しました。管理運用コストの低減を目指すとともに、近年、被害の大きい自然災害が多発し、米の流通にも影響が見られるなか、主食である米を取り扱っている以上、国民の食糧を切らさないことが当社の社会的な役割の一つであると考えています。

また、生産管理体制のレベル向上も着実に進展させています。桶川工場に続き、米粉製造の新潟製粉工場で食品安全マネジメントシステム国際規格FSSC22000認証を、2月末に各工場で精米HACCPを取得しました。

Q コメビジネスのグローバル展開での新たな動きについてお聞かせください。

A 巨大消費市場・中国への日本産米の輸出拡大と市場開拓への取り組みが進んでいます。

2018年は、これまで1カ所のみ認可されていた中国向け輸出に使用可能となる国内指定精米工場に新たに2工場が追加されるなど、中国向けコメビジネスに新たな布石が打たれた年となりました。9月には、その1工場であるホクレン農業協同組合連合会の石狩工場より「ゆめぴりか」を初出荷しました。百貨店や高級スーパーを中心に販売拡大に注力するとともに、和食レストラン等の業務用向けプロモーション活動による市場の開拓に取り組みながら、引き続き中国という大きな市場での日

本米の販売数量拡大に注力し、当社の工場でも指定精米工場認可に向けた準備を進めていきます。

さらに、2011年に中国・大連市に設立した合弁会社の業績も、現地に進出している日系企業に向けた中国産米の取扱量の増加によって順調に伸びています。ミニマム・アクセス米の輸入とあわせ、構築してきた中糧集団(COFCO)との良好な関係を今後の中国市場における日本米の展開につなげていきたいと考えています。

Q 2019年12月期の業績の見通しと合わせ、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 新たな発想による商品開発、ビジネスモデルの確立を通じて、新しい価値を創造する企業であり続けます。

2019年12月期は、前期に競争入札で落札したミニマム・アクセス米の取扱数量が大きかったこともあり、この反動減を見込んだ業績予想としていますが、中食・外食向け取扱量は堅調に推移すると見込んでおり、あわせて加工卵の販売も伸ばしていきたいと考えています。親会社株主に帰属する当期純利益については、前期に計上した特別損失の影響がなくなるため増益となる計画です。

世の中でさまざまな技術が進化するなか、精米機、精米技術の領域では、長年にわたり、大きな変化が見られていません。技術の革新によって当社の置かれる環境も一変する時代です。リスクであるとともに、チャンスでもあります。新たな視点での商品開発に長期的な視点に立って挑戦を続けていきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き、末永くご支援いただけますようお願い申し上げます。



人材育成への取り組み

当社は、日本の食文化を守り、おコメの素晴らしさを世界に広めるため、人材育成の様々な取り組みを行っています。

新入社員の採用

就活生向け1dayインターンシップの実施をスタート

就職活動を行う学生向けに、インターンシップの開催をスタートしました。今年度は計7回開催し、社員とのディスカッションや実際の商品であるおコメの炊飯や米粉パンの試食など、おコメにまつわる仕事に広く触れていただきました。



若い人材の育成

新入社員の農業体験

新入社員が農家の人たちと一緒に水田に入り、コメ作りを実際に体験する農業研修を実施しています。現在の農業経営の厳しさ、農家の方の考えている事を知り今後の仕事に活かしていく事を目的としています。



ダイバーシティ推進

女性が働きやすい環境づくり

当社では、育児・介護休業制度を整備し、女性が制度を利用しやすい職場環境・女性が活躍できる土壌づくりを推進するとともに、多様な人材を活かせる職場の整備に努めています。



女性マネジャーの岩井己希さん

社員のスキルアップ支援

自己啓発援助制度

2018年10月1日から自己啓発援助制度を刷新しました。新制度では、会社が指定する通信教育や、外国語取得の通学、資格試験の受験料などの補助、また言語能力優秀者への報奨制度を設け、グローバルな人材の育成に一層力を入れています。



海外事業部のセニーウォンさん



カン マスナリ 管 益成

社長室長 内部監査室管掌

執行役員(2016年4月1日就任)

出身は上海で、成人前に来日し、気づけばもう四半世紀が過ぎています。

職務はグループ全体の事業計画、予算編成と実績管理、グループ会社の管理、事業部間の調整や企業広報、IR活動など多岐にわたります。一番心掛けているのは、近年当社を取り巻く環境が大きく変化しているなか、より広い視野をもって全体を見渡し、常に客観的な視点からグループの今後の展開を考えていくことです。また、業界にとらわれず情報を集めて分析し、経営陣が適切且つ迅速に判断できるように工夫しています。

当社は、他社に先駆けて海外展開を積極的に取り組んできましたが、国内市場の趨勢を展望すると、より一層海外マーケットにおける存在感を高め、新たなチャレンジを継続的に求めていかなければならないと感じています。また、海外に限った事ではありませんが、円滑なコミュニケーションにはそれぞれの文化や慣習、歴史といった背景をきちんと理解する事がとても大切です。このため、グループ全体での人材育成と適切な人材の配置を考えながら、経営戦略に合わせてスマートでアクティブな組織作りが重要な課題と考えています。

会社とともに自分も成長していけるよう、今後も努力していきます。



会議中の様子



愛犬とのプライベートな時間



● 会社概要

商 号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業
 本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22
 本社所在地 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8
 木徳神糧小川町ビル
 TEL : 03-3233-5121 (代表)
 FAX : 03-3233-5131
 資本金 5億2,950万円
 従業員数 268名(臨時雇用者を除く)
 ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

● 株式情報

- (1) 発行可能株式総数 6,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 1,706,000株
- (3) 株主総数 1,637名
- (4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 良	72千株	4.37%
大和産業株式会社	70	4.23
木村 謙三	67	4.05
濱田精麦株式会社	60	3.65
全国農業協同組合連合会	60	3.63
株式会社三菱UFJ銀行	60	3.63
株式会社神明	49	2.98
水野 正夫	45	2.75
株式会社三井住友銀行	37	2.25
農林中央金庫	37	2.25

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、自己株式(53,530株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員 (2019年3月25日現在)

取締役

取締役会長 木村 良
 代表取締役社長 平山 惇
 取締役専務執行役員 三澤 正博
 取締役常務執行役員 鎌田 慶彦
 取締役常務執行役員 稲垣 英樹
 取締役常務執行役員 石田 俊幸
 取締役常務執行役員 竹内 伸夫
 取締役執行役員 岩苔 永人
 取締役(社外) 秋岡 栄子

執行役員

執行役員 大橋 正博
 執行役員 家辺 義之
 執行役員 石森 好宏
 執行役員 管 益成
 執行役員 山田 智基
 執行役員 金子 泰彦
 執行役員 郡司 和久

監査役

監査役(常勤) 伊豫田直記
 監査役(社外) 杉野 翔子
 監査役(社外) 福田 真也

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 上場証券取引所 株式会社東京証券取引所
 公告方法 電子公告 (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)



株主優待

100株以上ご所有の株主の皆様には株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

- 200株以上400株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
 400株以上 ▶ 4,000円相当の米穀製品等※
 ※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

12月末現在の株主様

- 100株以上200株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
 200株以上 ▶ 3,000円相当の米穀製品等
 ※2018年7月1日付けで単元株式数の変更(1単元：1,000株→100株)及び株式併合(5株→1株)を実施したことに伴い、株主優待制度を一部変更しております。

配当金

当社は株主様に対する利益還元を重視しており、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。その実現のためには盤石な経営基盤の確保が重要であり、株主様への利益還元と同時に内部留保の一層の充実を図りつつこれに取り組んで参ります。

■ 1株当たり配当金の推移

単位：円



株主アンケートにご協力下さい

株主の皆様のお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函下さい。何卒ご協力をお願い申し上げます。



ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆様

▶ 3月頃発送

6月末現在の株主の皆様

▶ 9月頃発送

ポイント2

当社米穀製品をお届けします。



※ 優待内容や商品デザインは、変更する場合があります。

■ 2018年12月期の配当について

2018年7月1日付けで普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、2018年12月期の1株当たり期末配当金は25円とさせていただきます。

	1株当たり配当金	
	中間	期末
2018年12月期配当	5円 (株式併合前)	25円 (株式併合後)

5株 → 1株に併合



テストキッチンでの商品開発の様子をご紹介します！

ノングルテン、機能性食品など高付加価値商品の開発に日々取り組んでいます。



試作の様子

当社の本社ビル1階を改装したテストキッチンにて、企画開発室直轄で新商品開発を行っています。



従業員試食会

キッチンのすぐ隣には、当社従業員およびお取引先様が試食できるスペースを設置しています。

現在開発中の商品例



パンズ、パン粉を米粉で作った
グルテンフリーコロッケパン



米粉を利用した
グルテンフリーサブレ



新潟製粉工場で FSSC22000 の認証を取得

当社の米粉製造工場である新潟製粉工場にて、食品安全マネジメントシステムに関する国際規格 FSSC22000 の認証を取得しました。今後も、世界の消費者へ安全・安心な日本の食品をお届けできるように、より一層の食品安全・衛生管理のレベル向上に取り組んでまいります。

米粉がごまの風味を更に引き立て、おやつにピッタリのクッキー。からだにもやさしい、ヘルシーなお菓子です。



おいしい おコメを使ったレシピ

調理時間 40分
カロリー 160kcal
(1人分)

簡単料理メニュー

米粉のごまクッキー

材料
(30分)

米粉	180g
ベーキングパウダー	小さじ1/3
無塩バター	110g
砂糖	65g
卵	1個
白ごま	大さじ2

- ① 米粉とベーキングパウダーは合わせてふるっておく。
- ② 室温に戻した無塩バターを泡立て器でクリーム状にして砂糖を加え白っぽくなるまでかき混ぜる。
- ③ とき卵を3回に分けて加え、よく混ぜ合わせる。
- ④ ③にふるっておいた①を一度に加え、木べらで切る様に混ぜ合わせる。米粉が混ざりきる前に白ごまを加えさっくりと混ぜ合わせる。
- ⑤ ④をスプーンですくって天板に落とし、170℃のオーブンで18～20分位焼く。



トップページ



IR情報



おすすめ情報

スマートフォンにも対応！

より多くの方々に当社を理解していただけるよう、おすすめ情報やIR情報などの充実を図っておりますので、是非一度ご覧ください。

日本の特産品

(表紙から)



当社とJAぎふは、高まる業務用米のニーズに応える多収米「にじのきらめき」導入プロジェクトを推進。コメの安定供給をとともに目指す岐阜県の名産品をご紹介します！

1 白川郷

木の梁を山形に組み合わせた、まるで掌を合わせたように見える独特の外観が特徴の「合掌造り」の民家が数多く残る集落。昔ながらの日本の暮らしを感じられる名所です。

3 さるぼぼ

飛騨弁で赤ん坊のことを「ぼぼ」と言い、さるぼぼは「猿の赤ん坊」という意味です。災いが「さる」、猿のように子沢山、などと掛け合わせ、子宝、安産祈願のお守りとされています。

5 五平餅

山仕事をする人たちの携帯食として生まれた五平餅は、木の棒に潰したうるち米を串焼きにしたもので、地域によって団子型やわらじ型などさまざまな形があります。タレも味噌味や醤油味など、様々なバリエーションを楽しめる郷土料理です。

2 にじのきらめき

味がよく、高温耐性・耐倒伏性に優れた新品種。さらに大きな特徴として、コシヒカリに比べて15%程度多収となる性質を持っています。当社・(株)壺番屋・JAぎふは協働でこの品種の生産に取り組んでいます。

4 飛騨牛

北アルプスなどに囲まれた、澄んだ空気ときれいな水が流れている地域で育てられた飛騨牛は、きめ細やかで、とても柔らかく、とろけるような霜降りが特徴です。